



南国から来たチョウ

今回『常陸大宮市史 別編2 自然』にまとめた、常陸大宮市の昆虫は、20目・220科・1,605種となりました。さらに調査を続ければ3,000種を超えたいと思います。しかし、何種類挙げても終わりではありません。昆虫は常に出入りし、変化しています。特に近年、温暖化等の影響により、南方系種の進出が目立っています。

蝶類でいえば、ナガサキアゲハ、ムラサキツバメ、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウなどです。これらは2000年までは関東地方に、ほとんど定着地点はありませんでした。

ツマグロヒョウモンとクロコノマチョウは、2000年代以前にも何回か台風などで運ばれた“迷蝶”^{めいちよう}として市内でも記録されていますが、ナガサキアゲハとムラサキツバメは、そのような記録もなく、進出してきました。30年前でしたらこれらのチョウの生息地は和歌山県以南でした。常陸大宮市の蝶に入ることは予想すらできませんでした。しかし、現在ではツマグロヒョウモンやナガサキアゲハは市内各地で普通にみられるようになりました。

この後もどのような種が来るか楽しみですが、あまりにも急な変化は心配でもあります。

また南方系の蝶ではありませんが、市内に入り込んだ種もいます。ウスバアゲハです。茨城県では2014年に栃木県から進入したと考えられるのが八溝山で確認され、その後、常陸太田市や北茨城市などの県北山地に分布を広げました。市に接する栃木県那珂川町にも分布していましたので、市内にも拡大してくると考えていました。予想通り2019年に市内の小田野で確認することができました。今回の市史調査で市内初確認となった蝶

自然部会 専門調査員
茨城県生物多様性センター
佐々木 泰弘



です。2022年にも市内の千田や尺丈山で確認されました。分布拡大が進んでいます。大宮地域や山方地域でも見られるようになるかもしれません。5月に現れる半透明の白い羽の優雅なアゲハチョウです。皆さんも探してください。

このように昆虫類はいろいろな種類がやってきたり消えたりしています。それを調べ続けることが、その地域の環境変化を見ていくことにつながります。身近な記録を残しておくことが大切です。

目	科数	種数
1 カゲロウ目	6	26
2 トンボ目	12	53
3 カワゲラ目	7	32
4 ゴキブリ目	2	3
5 カマキリ目	1	4
6 シロアリ目	1	1
7 バッタ目	11	46
8 ナナフシ目	1	2
9 ガロアムシ目	1	1
10 カメムシ目	34	86
11 アミメカゲロウ目	3	6
12 ラクダムシ目	1	1
13 ヘビトンボ目	1	2
14 コウチュウ目	58	489
15 ハチ目	14	62
16 シリアゲムシ目	1	2
17 ノミ目	1	1
18 ハエ目	3	5
19 トビケラ目	24	100
20 チョウ目	38	683
計	220	1605

▲今回の調査で確認できた昆虫 (2022年3月現在)

■問い合わせ■

文化スポーツ課 文化振興グループ
電話:52-1111(内線343)



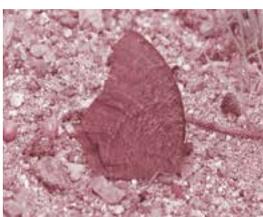
ナガサキアゲハ



ムラサキツバメ



ツマグロヒョウモン



クロコノマチョウ



ウスバアゲハ